滿州日報

○報價目
每月收取八角代賣所及送報人并無分毫加增

○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者每行二角每登十日行一角五分登月者每行每日一角登長年者價當面議從減　每張四百文

紅糧價錢五吊四百文至五吊
參三共上車三十餘輛
邊東共來七十餘輛
元四六吊九百至六吊八百

一運紙　全　一圓
一フールスカツプ　全　四圓
一中判洋紙　百枚　二圓
一半紙野紙　四十枚續　二十錢
一卷紙　十四錢

一鐵管　三十五圓
一卓子　四圓五十錢以上十三圓五十錢
一卓子掛　六圓以上十二圓
一廚房用戶棚　七圓五十錢以上十圓

一長火鉢
一箱火鉢　二圓以上三圓五十錢
一宜德火鉢　一對　六圓以上九圓

Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

發行所　清國營口中盛街　滿洲日報社（電話二九番）

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千壹百五拾萬圓

本支店出張所
橫濱　神戶　東京　長崎　大阪
倫敦　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　天津　北京
大連　旅順　奉天　芝罘　鐵嶺

（電話百八番　事務室　十番　支配人室）

橫濱正金銀行牛莊支店

日本郵船株式會社　瀛船出帆廣告

竹島丸　四月廿日午後　大沽、芝罘、長崎　門司、神戶行
營口丸　四月廿六日出帆　門司、神戶行　太沽、芝罘
乘船切符發賣は出帆前三時間マデ
未明出帆ノ分ハ前日午後五時マデ

營口代理店　旗昌洋行（電話廿六番）

瀛船出帆廣告

日海丸　四月十九日入港　仝廿日門司、神戶行
賴朝丸
第二乾坤丸　廿四日出帆

乘船切符は弊行にて發賣仕候

注意

弊行取扱瀛船積載貨物に對しては無手數料にて迅速叮嚀を旨とし稅關に對する一切の手續を取扱仕べく候

松茂洋行船舶部（電話五二番）

新荷着

朝日ビール
スペシヤル、ライト
廉價販賣仕候

滿洲一手販賣元
松茂洋行商品部（電話五二番）

飯塚工程局材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞此本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應　主顧局急之需　國本主人啓

宅合名會社分莊

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印并其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋緞子洋陳鱸表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸

運輸部

這般特得官准開設火車轉運行於東西兩店并牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚

總司理人田中賴之助謹白　電話　東店五五　西店一△三

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名域多利能載重二萬但如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉　貴客賜顧請到小號面議是荷

總司理人　葉亮卿謹白

東永茂

機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業并祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之

正理事潘玉田　副理事金德魁　設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南響乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外　士商賜顧者請認明招牌決不致悞

本主人敬啓

仁裕號

係裝運各幇火輪船生意兼賣各幇洋什貨糧石等此佈

營口西大廟街路北響乙第十三號

丸三洋行分莊

啓者本行開設於元神廟街精工自造羊肚手巾東洋氣身汗衫襪子以及各樣雜貨俱全無不精美價值格外從廉賜顧者請光臨本行面閱是幸

丸三洋行分莊謹啓

永順洋行

本行在東京開設三百餘年專辦布疋此次得大日本政府特許般運各色布疋手巾綢緞綿子法蘭絨等貨來埠發售顏色鮮明俱照中國土布家機自染決不退色價亦格外公道官商光顧請到本行面議

西北街　東櫃（電話九十五番）
西義順棧內　西櫃（電話九十八番）

代代木烟公司

本行專售　日本官造紙烟　星象牌（斯違）櫻花牌（擄利）百合花牌（利利）均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆沽來福）淸香撲鼻佳美適口而價值極廉　諸晉欲請可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元探買庶不致誤謹此廣告

本行瀛船

摩耶山丸　賴朝丸
專往東洋各埠

啓者本行開設在東營口輪船代理店海上火險公司及報客稅已有年矣今承關東總督府之特准開設東淸鐵路公司運送貨物自牛家屯大連鐵嶺另有分行并各有平昌圖府均有分棧大連鐵嶺另有分行并各有中國人辦事今又設理雜貨生意專辦上等石炭棉花火柴洋布旭牌卑酒日本淸酒一概俱全士有淸國人執事如蒙中外士商光顧請來元神廟街爲荷

松茂洋行（電話五十二番）

三井

電話　第六十六號　第九十一號

啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗、棉布、火柴、煤炭糖、海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近恕蒙各商光顧請駕臨是荷

○發售新到洋白糖

倉庫部

今回倉庫所在地（青堆子精搗場上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は同所へ御照會被下度願上候

（電話百二十八号）

經理

○明治火險公司

本公司開立已久分行上海、香港、天津、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議

○發售、日本白米

○東京水險公司

啓者本公司開設在三井洋行內已久實存資本百五十萬元、分行、新加坡、倫敦、孟買、天津、上海、香港、各地方中外馳名一概章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保平安、水漬、兵險者、請駕至本行面議

洋行

電話　第六十六號　第九十一號

生徒募集

營口瀛華實學院招入學生

今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し曩に督促を差出したるも尙遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし

營口　瀛華實學院

本學院肄業諸生頗著成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便茲因添設樓宇地勢寬宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名每日上午九點鐘至下午四點過期不候特白

營口瀛華實學院

新荷着

▲板材木　▲木炭
▲生石灰　▲竹
▲亞鉛板　▲洋釘
▲日本米　▲疊

喜久洋行

營口永世街八十號
（電話百五十二番）

東淸鐵道　裕和盛運輸局

在東營口西北街旗昌洋行對門
（電話八十一號）

啓者本號在日本長崎開設數十年并分店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專賣中外雜貨疋頭食物器具酒烟并代客報關裝船裝車今又承辦東淸鐵道運輸局代客裝運貨物各車站均設分局格外周到不悞主顧

總司理主人　周鶴雲
運輸部主任　高濱麟太郎　謹啓

稅關手續

一船舶代理
一貨物取扱
一委托販賣

弊公司昨年開業以來引續キ營業罷在候處今般業務ヲ擴張シ艀船ニ市ニ貨物運搬及貨物保管等確實敏速ヲ旨トシ殊ニ爲替付荷物及諸雜費等御依賴ニ應シ御立換可仕尙其他精々御便利ヲ相計リ可申候間倍舊御用仰付ラレ度願上候也

綏定門街第五〇
營口英國領事館東首

三仁公司（電話一五〇號）
小島榮歲

上海　中井洋行

專運日本各式紙料

本行開設已經多年曾與日本製造名廠有專銷之約凡新聞紙料印書籍各式紙莊票包棉紗料草板紙張日本機器連史紙五彩印字連墨其他各件紙料一切統由本行出售門牌可也　貴客惠顧請至江西路五十一號

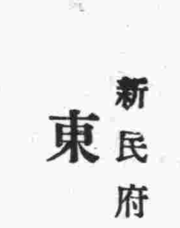
中井洋行

一、東淸鐵道貨物取扱
一、貨物集配
一、瀛車貨物積卸シ

右は安全、速達、誠實、廉價を旨とし精々御便宜を計り申候間多少に拘はらず御出荷奉願候

關東總督府特許
丸重洋行
營口西北街（電話一八番）
牛家屯停車場構內（電話四六番）

●雜貨卸小賣商
●菓子製造販賣商
●附日用食料品
●委托販賣商
●土木建築受負業
●瀛車積運送業



新民府孫家街
東洋號

鐵嶺　獎學彩票發售

由五彩至八彩共計八百貳拾六彩

彩票數　貳萬號　每號出售票洋壹圓

一頭彩一號　得六仟圓
一貳彩一號　得三仟圓
一三彩一號　得壹仟圓
一四彩一號　得五佰圓

四月末日開彩

鐵嶺軍政署內獎學會彩開

營口天順吉代售

齒科名醫到營

治療齒痛之法爲衛生上必要之一端尙未可以等閒視之也然本埠竟無良醫余常深以爲憾頃二志士特請居留天津之齒科名醫田添豐二君來營即在舊高田洋行內從事治療先生前在天津法租界開業久爲中外人所信服其技術之良否茲不復贅如有患齒疾者請速至該處診視愼勿失此機會特此聲佈

營口有志者白

太古輪船公司

啓者本公司自派溫州牛莊兩輪專走營口登州龍口一往一來接續不斷搭客配貨均由本行碼頭上落甚屬利便水脚素來公平船上應酬搭客無不週到歷經數年遠近馳名知者稱便用登報端以期廣告

營口　太古輪船公司

東京電報

●大連開放の決定　我政府は各國通商に便宜を與へんが爲め近々大連を開放して自由貿易港となす事に決定せり

●新補要塞司令官　少將伊知地幸介氏は今般東京灣要塞司令官に補せせられたり

●參謀次長の新補　陸軍少將福島安正氏は本日參謀本部次長に補られたり（以上十七午後六時日發電）

倫敦電報

●獨國新聞の不滿　獨國の新聞紙は全國皇帝陛下が墺匈聯合王國政府の外務大臣に與へたる電報に對して不滿の意を示せり該電報はモロツコ會議に於る伊國政府の態度を間接に攻擊せるものなりと一般に認められたり

●外債拒絕の眞意　獨國の銀行家が同盟して露國の外債引受けを拒絕せしは同じく是れ獨國がモロツコ會議に於ける露國の態度に對して不快の感あることを示すものなり

●大統領の演說と物議　暴富者の遺產相續者に對して進率稅採用に關する大統領ルーズベルト氏の演說は米國に於て非常の物議を惹起し暴富者云々の語句は進步せる社會主義なりと論せり（以上四月十六日發電）

●獨帝の電報と獨紙　獨國フランクフオト新聞は論じて曰くウヰルヘルム陛下の電報は明かに三角同盟がモロツコ會議に於て何等の用をも爲さゞりしことを示すものなり否な寧ろ三角同盟は既に土崩瓦解せることを示すものなりと

●獨國大使の噴火慰問書　羅馬駐箚獨國大使はベスビウス噴火の災厄に對して伊國政府に慰問書を送れり（以上四月十七日發電）

雜報

●大連の諸關係を論す(四)

在大連　柳坡散士

(四)大連の殖民關係（承前）

夫れ殖民の事たる全く人口增加なる社會的必要に迫まらるゝと雖も國家政策の保護に依らすんは良好なる發達を見る能はす故に本國の殖民地に對する行政は常に母國の人民をして殖民地土人の上にあらしめ土人をして能く母國民に服從せしめ彼を同化せしむるの方針を取らさる可からす予は常に支那近世史を讀んて元朝の統治と現清朝の統治か恰も殖民地統治政策の良否を數ゆるか如き感を生す元は蒙古に起り清は滿洲に勃興す共に異域に建國し遂に支那十八省を席卷して之を統治す元の國家を爲す規模廣大全亞州の天地を同化して歐州に侵入す其領土の大さ人種の多きを統治する行政機關の首腦は悉く蒙古人にして其他回回人支那人其他は補佐官として定員中の各五分の一位を用ゐしに過きす蒙古文を官府語となし毫も支那流政治の容喙を許さゝるの勢を示せり故に衰亡し國家は明の覆す所となるも猶能く朔北の霸王として今日迄依然蒙古の風俗言語を維持し元朝の血統は皆王と稱せり清朝の支那を併呑する頗る巧妙にして蒙古人を利用し漢人を籠絡し自から漢人の文化を吸收し文學を盛にして人心を懷つけ政權も其半は漢人に與へたりしも政綱の弛廢すると共に滿洲人は沿々漢人の俗に同和せられ今や滿洲政府あるも滿洲政治なく滿洲人ありて風俗言語なし元朝亡ひて後五百餘年尚は蒙古の存在を見るも清朝興りて後三百年に過きすして早く滿洲人の社會破滅を見る嗚呼一に其統治政策の如何に依りて如此顯著なる二個の反せる事實を見る戒めさる可けんや

本國と殖民地にして天然の氣候風土言語と同しくんは移住甚た容易にして衣食住亦甚た異ならすして事足るも今や氣候風土の全く母國と反對せる地を離れ亦以て殖民地とせさる可からさるの趨勢を來せり既に本國と異なる天然の地に移住する上は勢「鄕に入りては鄕に從ふ」の諺に從ふて其地土人の衣食住に慣れさる可からす彼等は幾百年天然の教訓と自箇の經歷より得て安全なる現住の生活を知得したるものなれは異鄕の人は之れを學ふの必要を生するなり茲に於て殖民上恐る可き一箇の病根を生す「居は其心を移す」の言の如く衣食住と天然とは明に人をして知らす知らす間人の惰勢的缺默と共に思想感情をも變化せしむるものなり此人情の機微を察して善導せすんは一國の殖民政策は失敗に歸するものなり故に母國の政策として已に母國への殖民地に移住するや我は母國人民にして殖民地土人を司配し敎化す可き權力と智織を有し子として汝を愛養するの義務あり德義なるものとの信念を抱きて母國政府に信賴し決して彼の俗に染ますして彼をして我か風俗言語に化せしめさる可からすとし根本的感念を以てする方針を取り或程度まて天然と風俗の相違に反抗しても本國の政策文化を保持せさる可からす單に移民の多きを希望し移民の利益を圖り移民地の發達をのみを念とせは後日母國と殖民地の利害關係の衝突を釀す基にして甚た危險なり、彼の單に母國の利益を計らんとして殖民地の富を吸收せんとする政策と共に甚た不可なり故に我國に各殖民地經營に對しては我か本國富强政策の一手段として母國人を附近邦土に分殖して本國の富源を枯さす能さ之れか藩屛たらしめんとする帝國主義の殖民政策を取らさる可からす

殖民政策確定したる上は之れか經營方針を講せさる可からす寒國と熱帶と暖國との其殖民地の天然如何は經營上大に方法を異にせさる可からす遼東半島の經營を畫せんとする先す其天然如何を考察せさる可からす大連に就ゐては露國か如何なる觀念を以て經營し殖民上如何なる關係を有するかを考察し次に支那人の殖民的狀態を語り最後に我國の殖民政策上採る可き經營の方針に論及せんとす」（未完）

●滿洲鐵道の經營

既報の如く滿洲調査會は既に數回の會合を爲したるか問題は滿洲鐵道經營に關するものに止り居るか如し鐵道中日露講和條約に據り我有に歸したる旅順、大連、長春間の鐵道は直に改築せらるへきが之を露國式の廣軌に復舊して西伯利亞鐵道との連絡を取る可きか或は之を普通廣軌として韓國及ひ清國鐵道との連絡を謀る可きかの問題は尚未定なり但し大體上前者よりも後者に決すへき傾向あり改築費の概算も既に立ち居り昌圖、長春間は露軍の撤退に際し殆と痕跡をも止めさるまてに破壞し去りたれば此か改築と云ふよりも寧ろ新敷設同樣の工事費を要する由次に奉天、新民屯間の鐵道は我軍の撤退と共に現設輕便鐵道を一旦支那政府に賣渡し更に日淸共同の負擔を以て改築を施し支那政府の名義を以て運轉營業せしめ（主に日本人を使用する筈）十八箇年後に支那政府は日本か負擔したる改築費の半額を償還して一切之を其所有と爲す筈なり此間日本は鐵道及ひ其收益を擔保とす可きことに協定せるの、如し又長春、吉林間の鐵道も奉天、新民屯鐵道と同樣新築費の半額を出し擔保として之を取り置くへき協定となり居るか如し之に對する支那政府の償還取得期限は二十五年後なりと安東縣、奉天間の鐵道は日清協約に基き當然日本に於て建設すへきものにして戰時中の輕便鐵道は到底其基地と爲すへからす殆と新築同樣とて一哩大畧十二三萬圓を要すへく全部工費約二千五百萬圓に上るへき見込なり旅順、大連、長春間鐵道の改築費並に奉天、新民屯間長春、吉林間の二線路工事負擔額を併せて滿洲鐵道經營は大約四千五百萬乃至五千萬圓なりといふ

●露國の日本品驅逐策　露國商工省は滿洲黑龍江省に於て露國工業品の日本品に壓倒せらるゝを防禦する爲めオデツサ浦鹽間の定期航海を開始すると共に西伯利亞線東清鐵道烏蘇里線の運賃引下を計畫し又東淸鐵道は日英米商品の北部滿洲に流入するを恐れ哈爾賓以南の露領線路に於て運賃引上けを斷行せん筈なりと

●撫順炭坑と內國炭　撫順炭坑にして正規の採掘を開始する場合には旅順大連は勿論滿韓各所、南北淸各所及ひ東露各所に於ける日本炭の需要は忽ち撫順炭の競爭を受く可きは自然の結果なれは筑豐を初め內國炭業者は右に對する善後策として內國炭業者の合資を以て撫順炭坑を政府より引受け內國炭の市價を害せさる範圍に於て其開掘を行はんとの說あり過般桂伯の西下に際し藤田傳三郞氏一派も撫順炭坑の引受けを運動したるやに傳へらる

●滿洲博覽會の敷地　滿洲博覽會は最初奉天府尹の居城五百坪を以て之か敷地に充てんとしたるを民政署と交涉の結果ア監理所敷地五千坪となし東京、大阪、京都、橫濱、神戶、名古屋の六商業會議所にて其大部分を占有する事とし他の二百坪は淸國人の出品敷地に當て殘餘三百坪は一般內地希望者の出品敷地となすに確定したる由傳へらるゝも信僞未た知るへからす姑く記して後報を竢つ

●四平街寬城子間運賃　四平街より寬城子迄の滊車賃は一貨車二万二千五百斤積百三四十圓哈爾賓迄六百圓內外なれば今假りに穀類を積載するものとせば寬城子迄四斗四升入一袋約二圓哈爾賓迄約四圓五十錢と爲り又寬城子哈爾賓間貨物一件(百二十斤)中錢にて六吊五百文なりといふ但し同地方の一斗は我日本升の一斗七升位に當り南方のものより稍々大なりといふ

●基督敎靑年會寄附金　日本基督敎靑年俱樂部軍隊慰問の成蹟は前號記載の如くなるか今回關東總督には其擧を贊し一千圓を寄附せられたるか其感謝狀左の如し

日本基督敎靑年會は明治三十七八年戰役間厚く軍隊の慰籍に努め尙引續き滿洲の守備に任す軍人軍屬を慰籍せんとするは感謝の至なり茲に其擧を贊し會費の一部に充つる爲め金一千圓を寄贈す

明治三十九年四月　關東總督男爵　大島義昌

此他外國人にして同會への寄附者、一百圓營口稅關長米人クラーク氏一百圓同英人ヴヘンエス氏、一百圓同米人マカスリン氏、五十圓北京米國公使サトー氏、五十圓北京米國公使館一等書記官クーリツジ氏、五十圓營口英國領事フルフオード氏、五十圓營口米國總領事サモンス氏五十圓營口英國醫學士テリー氏、五十圓營口英人ブツシユ氏、五十圓營口パテンヂテル氏、二百圓米人グリーソン氏等なりといふ

●瀨川領事の晚餐會　瀨川領事仝夫人は今回歸任せられたる與倉軍政官及仝夫人を昨午後七時招待し晚餐會を催ふされたるか領事館員及夫人連も參列し和氣洋々たる盛宴なりしと云ふ

●正金銀行の滿洲統轄店　滿洲各地に於ける支店及出張所を統轄する爲め當地に正金銀行滿洲統轄店を開設することは世人の熟知する處なるか支配人小田切氏も近々赴任の由なれは遠からす愈々開設せらるゝ運ひに至るへし同店副支配人小貫法學士は既に到營し居らるゝと云ふ

●稅關員の賜暇歸朝　西稅關員乾種次郞氏は今回三週間の賜暇を得十三日出發歸朝したりと

●本日の持狂言　二本町松榮座岡本千代花一座は一同車輪の大勉强の爲め初日興行以來每夜大入札留めの盛況なる由とは結構〳〵本日の持狂言は舊演劇、女武勇傳更科騷動序幕より大詰までと云ふ

投書かご

覆面郞君の月旦は知り合ひの者が寄り合ふと適切公平だと云つて感心して居る一商店の小僧君の對正金の辨護か辨明かの樣なのが出て居たが銀行家でない商人たる我輩等から單純に考へると商業とか貿易とかの機關でもない關係の薄い一般小額の送金銀行のない不便な土地へ送金する時に依賴する郵便局の送金料と銀行の其れとが餘り差合がない軍票九掛時代の初めには千圓以上の送金でも矢張り一分即ち千圓に十圓(其後五百圓以上は五圓と云ふ引下げになつたが)其當時郵便局の送金料も一分たが是れは軍券でよい銀行は金券で取ると云ふので結局郵便局よりも銀行の送金料の方が高くなる今は手票金券の差合が少くなつたが五百圓以下の送金料は兎も角同額の料金である全体一分と云ふ手數料は確實な商品であると依托賣買とか何とか非常な面倒な手數のいることをしても一分の手數料と云へは先つ結構として働くのが一般の樣だ現に營口の豆問屋等が大豆豆粕の買賣積込み迄の手數料が是迄は凡そ千分の五位なのが諸物貨騰貴と云ふので千分の十と云ひ出したが客筋側から劇烈な攻擊がなつたので千分の六と結着したと云ふではないか單に金を送る手數料なるものが千分の十とか五との云ふのはどうしても不釣合ひではあるまいか此頃十錢廿錢の小札は銀行で何程かの打步を請求するが一圓札に於ても更に一千圓に四五圓の打步を取ると云ふのは何ふ云ふものでらうか何の都合のあることか知らぬが銀行札の一圓以下の小札の發行も速かにしてもらいたいものだ爲替の步合も成程金銀相場の烈しいので銀行家の腦を惱ますことも一通りであるまいが他方面との比較假に競爭者があるとして見るとまだ〳〵勉强する餘地はある樣に思われる兎に角戰時々代の金儲けは既に去りて永遠の眞面目の商業時代となりつゝあるので支那人や外人を對手とし大に競爭し打勝たねばならぬのであるから銀行の方でも出來ぬ事は仕方もないが出來る限りは一般に一層便宜にしてもらいたいのが小輩の希望である（一商店の小輩）

●づた袋　支那人の辮髮は土耳其二千年前の遺習とは或博士の考証に成れる一新說である▲羅馬の一商店盜難に遭ひ乃ち新聞紙に廣告して御尊來の御泥棒樣何卒書類丈け御返却懇願し奉り候と出す近來の一珍話である▲獨乙陸軍は其參謀本部附中佐五人を伯林東洋語學校に入學せしめて日本語を修業せしめ又三人の士官をして陸軍大學日本語科に入れ研究中であるシテ右の八名は日本語修得次第日本に來て軍事調査を命せらるゝさうぢや▲混濁せる今の政界中にありて溫厚篤實主操堅貞の老志士鈴木重遠翁逝く享年七十九時は艶春四月花の盛りと雖も吾人は其訃に接して轉た寂莫の感無きを得ないのである▲近頃獨乙に船に醉はぬ椅子即ち船暈豫防の一種の椅子が發明せられたが其椅子は震動の原理に基いて造られたる肱掛け椅子で迅速に其れが上下左右に震動する簡單な仕掛のもの丶さうな四面環海の日本あたりでは一寸外へ出るにも船に乘ら無ければならぬ早く船にさういふ物が備付けられたら國民外展の上に資すると極めて偉大なることであらう

●兇惡の死刑執行（淸人）　愚昧の淸人とは云へ恩を仇に報ゆるとは情なき次第なり而かも夫れが謀殺の大罪とは聞くも身の毛の竪つ話ならずや、茲に原籍淸國江南省英州府太和縣太和城內住所不定無職業王輔臣(廿九)は本年一月頃當地に來り火神廟街第十一號家屋の一室を借受けて之れに居住し一定の職業なく生計に困難し居りたる者なるが其隣室に住する奉天省朝陽縣の者にして苦力を業とせる鄒(六十二)なる者と懇意になり時々金錢食物等を惠まれ居りしが一月廿六日鄒は彼王輔臣の境遇を憫れみ已れの所持金中より十錢を與へたる事あり其際王は鄒が多額の金員を所持せる如く思ひ茲に同人を殺害して金錢を奪ひ取らんと恐ろしき巧らみをなし折に時機の到るを待ち居りたる所終に二月二日夕刻火神廟街魁茂樓と稱する阿片屋に到り銀廿錢を以て阿片を購い來り其半を已れ吸飲し殘餘の阿片に黑砂糖少量を混じ湯に溶かし鄒が許に持行き、躰を暖むる良藥なりと詐り服用せしめたる後已れの居室にて竊かに容子を窺ひ居りたるも一向苦しみの聲も發せず如何あらんと其室に到らんとするに扉堅く鎖し通行し得ざるにより中間にある土壁を破り侵入したるに鄒は未だ死するに至らず大に苦悶し居りたるを以て彼王は最早之れ迄なりと附近に有合せたる麻繩にて鄒の咽喉をしめ縛り尙は三角形の煉瓦を以て左面部を亂打し全く絕息するに至らしめたれば彼は直樣鄒の衣類十點及び銀三圓を奪ひ取りて翌三日午前七時頃同家を逃走し其後一時新民屯に潛伏し只管其筋の探査寬ならん事を待ち三月十九日再び當地に歸り諸所徘徊中翌廿日巡捕の爲めに逮捕せられ司法部に引致せられ嚴しく訊問を受け終に包み隱す能はず前述の次第逐一白狀に及びたれば審理の上終に謀殺罪に問はれ昨日午前十時死刑の宣告を受け遂に其日午後三時阜有門外淸人共同墓地にて死刑を執行せられたり今其狀況の概畧を記載せんに當日死刑執行の噂の市中に傳はるや此の光景を見物せんとて甲傳へ乙聞き司法部附近は日淸人の山をなし一時は通行杜絕となりたり、軈て豫定の時間となり獄屋より引出し繩付となして第一派遣所長平島憲兵曹長其他二三の憲兵騎馬にて護送し巡捕劍銃にて四方を取り圍み徒走にて刑場に引致すれば其後ろより模樣を見んとて車に自轉車に徒走に從ふ者男女約五六千人なりき、黥て大罪人王を見るに喜色を帶び途中大聲を發して放歌す其度胸の飽迄恐ろしき事到底言語筆紙の盡し得る所にあらず、二時四十分刑場に着したれば爰には已に逸早の見物人最早十重二十重と刑場を取捲き其數無慮一万人と注せられき、愈々執行となりて巡捕罪人の眼を蔽はんとすれば彼は拒んで應せず切れと云はぬ計りの動作に巡捕等は大に持て餘し終に平島曹長出でて蔽はんとすれば彼は大人なればとて却て喜び會得したり、準備已に整ひしを以て第五派遣所詰淸水憲兵上等兵執刀し一刀の下大根を切る如くに見事首級を刎たるには數万の見物唯呆然たり、死骸は直に土葬とせらる圖太き兇惡と謂ふべし

幽居偶成　岩城黃雨

午夢醒來寂似禪掩簾佳趣傍窓前山頭雨霽花含露岸角風和柳帶煙幾度吟懷能入句三旬幽思自成篇陽春半是瑯環地願賦新詩學樂天

春日偶吟　同

閑吟曳杖到江東漠漠晴煙一路通漁棹遠來春水外樵歌遙起暮山中攀條時染枝頭露舞袖長招岸角風我耻看花花笑我好花多與去年同

石（春季）　虛空洞

石割の響にゆれて散る櫻
飛石の盡きる所を若草や
石段にはらり〳〵と散る櫻
歌塚や只一本の青柳
石垣や壞ばれ花菜の危うげに

大連車
▲上行車時刻表
車站名　午前發分　午後發分
新民屯　營口　至山海關
上六、〇〇　上八、二〇
上九、五七　下六、〇〇
▲下行車時刻表
車站名　午前發分　午後發分
北京　至山海關
上八、〇〇　下六、二〇
稅關手續　船舶輸出入荷物取扱
諸鐵工製作　營口
天氣豫報　營口地方　自十八日午後六時至十九日午後六時

小説

新作小説　おとし胤（四十）　德田秋聲

此の眼で睨まれては、光は、體が竦むやうに覺えるのであツた。雖然光は、毎度此の眼に馴れてゐる。で、左程に思はなかツた。嫌には嫌だけれども、無邪氣な考から、華族のお奥の方もいふものは、大方此樣な風のものであらうと思ツてゐたのであツた。彼女はいびられ小突き廻されるに拘はらず、尙だ小御門村にゐた時の無邪氣な心を失はぬのであツた、彼女には一點、僻とか、邪推とかいふ念が無い。淸淨である、潔白である、されば、恐ろしい人の心を洞察して自分を護る術を知らぬ。

光は、ふツくりとした廂髮を、ヲリーブ色のリボンで飾ツて、身には、うす紫の羽二重の被布。其の生々しい、神々しい、氣品のある姿は恐らく竹の園生のお㐫ちの姬樣と申しても耻しからぬ位。加之菊日和の麗しい日影を滿身に浴びてゐるのであるから、それこそ眞箕に體が光ツてゐる、光とは、能くも名づけられた。

數馬は、今更のやうに、其の美しさに見惚れた。後家も、夫人も、負惜にも、其の氣品と美しいのに感服せずにゐられなかツた。それで六ツの眼は、少時光の體に引付けられて離れなかツた。

「此の子が、此樣なだから、此の子の母も、さぞ美しかツたらう。」

と夫人は、ふと此樣なことを考へられた。考へると、不思議や。胷に炎が燃立ツて、勃々と嫉ましい、思が湧く。そして眼の色さへ變ツた。

「光さん、何か御用ですか。」

と夫人は、所故に他々しく、出來るだけ慳貪に呼掛けられた。

「はい。」と會釋して、温雅に椽に上ツて、手を支えた。「お祖母樣、あの、お父樣が、お茶が入りましてございますから、鳥渡お越し下さいますやうに………」

後室は、傍を向いて聞かぬ振。それで返事も無い。夫人もまた冷然として、それを取次でお遣りになるのでも無い。

光は、ハツとしても。しや、謂方が惡かツたではあるまいかと、慌てながら、更に出直して、

「あの、お祖母樣、お父樣が、鳥渡お居室までお越し下さいますやうにと仰せられてございます。」

それでも尙だ返事が無い、實に謂はうやうなき侮辱である。光は、さすがに腹立たしくなツて、顏が眞ツ赦になツた、雖然熟ツと怺えた、少し頭を擡げて、

「あの、お祖母樣………」

と謂ひかゝツたが、もう、おろ〳〵聲だ！見るに見兼ねて數馬は、

「阿母樣、兄樣から………」

と良怒氣を含むだ聲でいふと、

「解りました………」

とけろりとしたもの。

數馬は、被蔽せて、

「お出になるのですか。」

「さ………」と後室は、數馬には應えず、光に向ツて「今の、少し阿母樣と話をして居るでの其方は、阿父樣の許へ行ツて居るが可い。」

「それでは、後刻お越しになるやうに………左樣申上げて………」

と謂盡らぬに、

「誰がの、誰が、後刻は參ると謂ひましたの。獨合點のことは謂はぬものぢや……… 其方は父樣の口上を取次に來やツたのぢやでの、口上さへ述べさら、それで歸るが可い。」

と橫に車を押すたしなめ方。

夫人小氣味好げに微笑まれる。數馬は、苦りきツて傍を向く。光は、見事お面を吃ツて、淚は眼から溢れんばかり、それを怺えて、椽を滑り下りて、悄々と御殿の方へ引返すのであツた。

數馬も、憤々しながら、椽を離れて、衝と立起ツた。

「其方の、御殿へお出なら、兄樣に、直に參るからとの、謂ふて置きやれ。」

「は。」

と數馬は、ぶツきらばう、

後室は、夫人と顏を見合はせて、

「のう、あの話ぢやよ。取定めて了うてから、私に話したとて何んにならう。うツけめがの。」

それからまた少時、兩人して密々話。何樣な相談になツたのか、夫人が此の隱宅を出られる時は、賴れるやうな笑顏で、お室へ歸られるまで其の笑顏が消えなかツた。そして間も無く後室は、子爵の居室へ向はれたのであツた。

●營口花信　醉花園が元ふじ屋と謂つた頃におンタといふ美形が居たが彼れは慥か退潰處分を喰つてゐる筈なのに此頃又々捲土重來を策して知らぬ顏の半兵衛で營口へ遣つて來て居るさうぢや併し今度は誰れとかの手飼猫と爲つて奥さん然と澄まし込んで居るとは何處迄も化猫である▲向ふ見ずとか何とか見ずとかいふ營口の或旦つくは此程玉酢しのおふじ姐さんを手飼にしたが其旦つくの家に一匹の馬を飼つてあるので二匹も活き物を飼つては始末に終へぬといふので愈ゝ馬を賣却することにしたさうなが近所では四足の足を兩足の馬に乘換へたと言つて居る鞍替といふ熟字は寧ろ斯んな所に用ゆべきであらうか▲南永世街の天草旅館の猫共は皆チャンビーのやうに顏を眞紅に塗り立てゝゐる無論チャンコロを引張る爲めであるが爾ういふ事をして迄稼せが無くちやならぬやうに爲つたのは花界の盛衰をトする唯一の好證左であらう

廣告

齒ノ衛生治療ハ一日モ等閑ニ附スベカラズ然ルニ當營口ニ良齒科醫ナキハ予輩ノ常ニ遺憾トスル所ナルヲ以テ二三有志者相謀リ在天津ノ該科名醫田添豊三君ノ出張ヲ請ヒ河岸通リ元高田洋行跡ニ於テ本日ヨリ約三週間治療ニ從事セラル、事トナレリ君ハ夙ニ天津佛租界ニ於テ開業シ內外人ノ信用ヲ博セラル其治術ノ巧否今復之ヲ贅セズ齒患ニ艱メル諸君及齒ノ衛生ヲ重セラル、諸君ハ此ノ好機ヲ逸セズ陸續君ガ治療ヲ受ケラレンコトヲ望ム

四月十二日　營口有志者白

森病院

一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より
▲患者の入院治療を諾す
▲貧困患者の施療は正午十二時より二時迄
姙婦の入院を諾す（産婆大道しげ子）

院長　醫學得業士　森　嬌
副院長　醫學得業士　長船郁太郎

◎院長森嬌久敷歸朝中の處今般歸營診療に從事す
◎本院齒科開設　齒科醫　兒島市郎　五月一日ヨリ開設ス

森病院（電話一五五）

和洋雜貨　盛進商行

新着
椅子　卓子。窓懸。
卓懸。花莚。マツト。
油多加織。ビロードセン。

開業
日華貿易兼運輸業
一昨年來御引立を蒙り候本公司は昨年平和克復後暫く休業中に候處今般更に開業業務聊か擴張仕候間倍舊の御愛顧偏に奉希候
月日
營口神廟街二四八號（電話局向）
義安公司
廣告

質屋營業
精々勉强御便宜相計り可申上候間多少に不拘御仰付け被下度願上候
營口永世街南壹第三十六號
北斗洋行質屋部

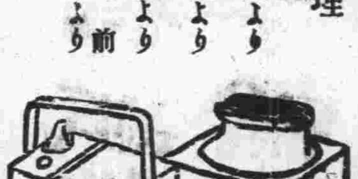
時下艶春花を見るの好時機と相成候處各位益々御淸康の段奉賀候降而弊閣儀料理部開店以來幾多諸君の御愛顧を辱し深く御禮申上候隨而今回旅館部開設いたし室內の衛生裝飾等細大漏らさず御客樣への御便利を充分注意致し候間重ねて御引立を蒙り度此段伏而奉願候　敬白
營口二本町
祇園閣旅館部
主人（電話一四四番）
各位

歐米各國最新流行形
西海洋服店
永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

廣告
追日暖氣相增各位御隆榮御坐被遊賀上候陳者弊洋行義昨年四月御當地に開店已來各位淺からざる御愛顧の御蔭を以て營業致來り候段難有奉深謝候然る處此度都合を以て商店を大連市に引移り候事に決定致候乍遺憾當地は此度にて引揚致申候間何卒不相變御交誼之程願上候尙洋行殘務は盛進商行方にて依頼致取扱申候間是又宜敷願上候店主一々御挨拶に罷出べき筈に御座候處大連出張中にて不得其意他日來營の機を得て御詫申上候先は以新紙上御挨拶如此に御座候早々
營口元神廟街
㊑田中洋行

一料理用白味噌、赤味噌、
一煙草類、東京淺草海苔、木炭、萬醬油、白米、鰹節
一罐詰類、
一瓶詰雲丹、酒盗、コノワタ、
一淸酒澤龜特約、並に瓶詰、
一酢、ビール、葡萄酒、洋酒類、
其他日用品乾物雜貨新荷着仕候に付多少に拘らず御用仰付られ度伏て奉願上候也
營口永世街第廿八号
雜貨商　大原洋行

御手輕料理
一釜飯御一人前　五十錢より
一壽し　一本　十五錢より
一湯豆腐　一壺　廿五錢より
一東京壽し　一人前　卅五錢より
右之外御誂に應ず
月日
營口元神廟街二〇九號
翁亭



會席料理　三日月
營口警務課前南に入る

一關內外盧漢鉄道貨物運輸（但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ハ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候）
一海關手續（但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱）
一鈔關手續（但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱）
一船舶貨物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號
大淸通運公司
營口支店

大阪商船會社荷客取扱所
內外船舶代理係貸借仲立輸出入稅關手續
解船人夫運搬請負
水陸輸送貨物仲次所
諸品委託倉庫業
瀛船出入案内
英航丸　神戸行　十九日出帆
能登丸　十九日入港
御乘船の御方は御一報被下候へば切符持參可仕候尙御手廻荷物は當店送達組に御用命仰付被下度奉願上候
西北街　德重洋行

萬事勉强乘車乘船好位置
營口中央市場前
旅館　東京樓
店主　熊田兼次郎（電話丙七十八番）
即席和洋料理　東京樓支店（電話四十四番）
西洋料理仕出し御需に應ず

和洋御料理　一力
舌代
弊店儀開業以來各位の御引立に預り日増隆盛に赴き候段奉鳴謝候隨て今般各位御愛顧の萬分一に酬ひん爲め內地より有名の料理人並に藝者仲居を呼寄せ殺風景なる滿洲に得難き珍味と快感を相供度座席裝飾に至る迄凡て一新致候間續々御來遊被成下度奉希上候
樓主　敬白

和洋會席　御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
營口永世街二本町
日本館（電話百三十）
各位樣

市料理
滿月　平の町電（一五三）
滿月支店　平町（元都樓跡）
店主　吉木勝惠

料理部開業披露
弊館是迄旅館專業に御座候處今般新に料理部を開設し聊か紳士諸君の御引立に報ひんと存候就ては座敷向き等も凡て改築仕日本式の粹を拔き藝妓仲居も弊店付として內地より二十五名計り呼寄せ特に料理は東京有名の厨士を聘し材料に乏しき當地にては不可得珍味佳肴を供すべく一切の準備相整ひ愈ゝ本日より安直を旨とし開業仕候間何卒賑々敷御來遊の程備に奉希上候
追而料理部開業と共に旅館部にも改良を施し御客樣の御便利御計可申候間不相變御引立の程願上候

旅館　第一營口ホテル
料理　第一樓（電話八四）

廣告

當公司今般業務擴張の爲め特に敏腕熟練なる技術者數名を聘し公私を問はず和洋各種の建築及土木事業に關する製圖設計監督の依托に應し最も懇切敏速に處辨す

建築部主任技師工學士 森川範一
土木部主任技師 永原万吉

營口元神廟街第百七十二號（電話一七三番）
土木建築請負業 井上公司

萬代不朽 **毛製屋根瓦ラバロイド及リサイト販賣廣告**

ラバロイドルーヒングは堅牢にして極寒炎暑の候に耐へ如何なる地にても不適の場所なく又破損漏水の憂なく良く極寒炎暑の地に適し床及階段等の敷物に有効なり
リサイトは室内装飾塗料にして通常ペンキの如く臭氣なく變色の憂決してなし

米國紐育スタンダードペイント會社東洋特約一手直輸入販賣元穴原商會營口特約販賣店
營口元神廟街第百七十二号（電話一七三番）
井上公司

醇良自釀清酒

エジプト煙草
インペリヤ（金口）
ヱキスタラフワイン（キルクロ）

右特約仕代價者精々安價にて賣出し候間多少に不拘御用命被下度候

牛莊港東營口
宅合名會社營口支店

最新流行 春夏帽子靴下 婦人用小間物
最新雜貨 新柄反物
新着荷

並に附屬品 勝寫版 風月堂羊羹 鹽湯利用香煎各種

天盛洋行（元神廟街雜貨商）（電話三百七十番）

銘酒 白鶴　諸雜貨

今般新荷着仕候に付ては卸小賣とも是迄の賣直段より壹割引 酒及米、罐詰類は五步引を以て販賣仕候間多少に不拘御用命被仰付度偏に奉願候 敬具

營口元神廟街 井門洋行
遼陽西門外 仝支店

發賣 材木標子木板

塩川商會

清國營口二本町二二五五號
主任 鹽川峯吉（電話一三六番）

遼陽小西門内 鹽川商會

●建築用材 北海道産松大角（自廿五尺至三十尺）一万立方尺餘
外に電柱用材杉丸太長（自二十尺至三十尺）八千本
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

●大日本帝國有名方劑 ●御化粧品並賣藥一切 ●卸賣小賣

右を旨とし内地と同様の廉價を以て萬事御便利を計り御用命被下度候卸小賣共奉希上候 電話にて御注文被下候へば直に持参可仕候

營口永世街 回春堂大藥房
大阪 三木洋行（司法部東隣）（電話百九十番）

日本有名秘藥物品賣捌廣告

婦人用香水油以及各種化粧品髪油香料藥品一切貨物價格比從前廉宜凡在日本國内之貨物無論零賣批發均可 ... 此告白

回春堂大藥房 三木洋行（電話百九十番） 啓

胃腸病新藥

消化劑 **糖化素**
医学得業士矢島氏發見

滿洲特約一手販賣 東瀛大藥房 營口大街

本劑專治脾胃失調飲食不化之諸症新舊脾胃疼痛過用米麵積滯腹瀉胸飲心驚婦人懷孕惡阻嘔吐之症熱病稍愈腸胃未至於調和又如停食胃口不開肝胃氣痛肚腹膨脹兩便苦澁之諸症均有卓効
發明者日本醫學得業士 矢島猴太郎 謹白

業務擴張

弊所儀從來活版印刷業罷在候處今回業務擴張の爲め印刷器械並に歐文活字を購入し更に歐文印刷部を新設し且つ技術に熟練なる職工を聘備致從來の御高恩に酬がため非常大勉强仕高需に應し可申候條尚不相變倍舊の御愛顧を垂れ御用命被仰付度伏て奉懇願候 敬具

活版印刷並に製本

弊所特色
●印刷鮮明 ●價格低廉 ●叮嚀專一 ●期日正確

營口入口永世街東二本町角
川本活版所

從二位勲一等子爵長岡護美君 去る八日薨去相成候に付來る二十二日（日曜日）午前十時より日本人會々議室に於て**追悼會**執行仕候條御參拜相成度此段有志諸君に謹告候也

四月十五日
主唱者
片山敏彥　松倉善家
飯塚松太郎　小鍋芳
小泉市太郎　牛島吉郎
佐々江嘉吉　後藤麟太郎
瀬波專平　大野弘
石崎廣治郎　會田常夫
小田原寅吉　阿部善三郎
宮村榮治　新庄曒
上野源次

木村寫眞館

最新流行之寫眞撮影法に附ては叮嚀且迅速を旨とし光線の配合及位置等に尤も注意をなし各位の御嗜好に任せ撮影可申上候 弊館は更に一大勉强をなし價格の廉なるよりも進て調製方を叮嚀になし寫眞一組毎に一枚を相添可申候事に相定申候
營口二本町

代辦貨物、兼寓客商
如蒙光顧、請先通信
日本大阪川口清商六十四番 瑞通祥號
經理人 張旭初

官製口付莨、文房具
和洋酒類 白米
罐詰、菓子
藥品、雜貨 卸商
醬油瓶樽詰
防寒具、安價販賣

豐生洋行
營口西北街（電話十三番）

軍隊用雜貨
日用品雜貨
吳服太物類
化粧品類 卸小賣
陶器類
食料品類
其外新荷着精々安價販賣

營口永世街七十號（第二市場東）
石原商店

惠比須ビール新荷着
●金升洋行
●盛進商行

美味安價西洋料理 牛莊亭

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣

江副洋行
營口永世街

開行時刻

區間	開	到
山海關至天津	上五、[illegible]	下五、[illegible]
唐山至天津	上六、一二	上一一、二八
塘沽至北京	上六、〇〇	下一二、〇六
天津至北京	上一二、〇〇	下五、二〇
山海關至北京	上八、〇〇	下六、四五
天津至唐山	上一一、四二	下五、一七
天津至山海關	上六、二五	下六、二一
唐山至山海關	上六、〇〇	上一一、五八
山海關至營口	上七、〇五	下四、五五
溝邦子至新民屯	上三、〇〇	下六、五七

輕便入院 永世街警務課ノ前

一、引換書御送附ニ相成レハ諸費立換ヘ配達或ハ保管可申候
市場北三階樓時計店ノ二階 宮原公司

土木建築用鐵材料 其外鑄物諸般 門會街東 [illegible]

[illegible]場豫報

昨日の氣溫 最高溫度七十二度〇 最低溫度四十五度一
昨年との 高廿一度八 高十度四

宮門抄

三月二十日 理藩院光祿寺 八旗兩翼值日無引 見 保送知府良琦謝 恩
召見軍機 徐宗濬英俊預備 召見
徐宗濬 英俊
二十一日
召見軍機 瑞齡 嵩連 梁敦彥 卓公

論說

論滿洲三省偏興學校之難

滿洲三省。處中國之極東隅。受文明之輸注甚遲。而其人民之性質。近於頑迷者實居最多數。自科舉廢。學堂興。在稍知時局者。類莫不爲國運之維新。人民之進步賀。而各行省之彰彰著其成效者。已有更僕難終之勢。使於此而結其團体。鼓其受力。合公共之財。爲公共之益。學界之影響有不日新月異歲不同者。亦已尠矣。況東三省原饒沃之區物產豐阜。土田肥美。雖窮鄉僻壤。殷富之戶。所在多有。以廿富庶之地。羣焉興學。以全省全境之公益。爲一身一家之仔肩。如營私利。必竭其聰明才智以圖之。務令規模美備。程功完全而後快。蓋非至艱極難之事。一提倡之而其力自足以集事。而無缺陷之虞。乃出今以觀。上自軍帥守牧。下及各處官紳。日皇皇焉以興學育才爲至急難緩之要務。而起而應之者。寥寥無幾。查合屬官立學堂。雖已俱經創設。而一州一邑。其大者轄境至數百里之遙。以中央一學。爲合邑之標準。誠有難於遍及之勢。即令設傳習所以教蒙師。俾得轉相授受。而數月之薰陶。領悟已淺。矧遠力獵食諸人。百業未就。稍識之無。即思坐擁皋比。濫竽充數。若此者。縱令傳習許久。其自來之程度既低。平素之講習皆陋。欲其心解神會。以是彼而注茲。不誠憂憂乎其難哉。又況滿洲三省。自甲午以後。庚子以還。各國交通。事務雜頤。借才異地。尙覺肆應爲難。事繁人簡。若本省學界擴充。人才輩出。蹌蹌濟濟。不難盡舉以登庸。是非偏設民立學堂。注重普及內育不爲功。獨奈何鄉愚無知之倫。不知始於何人。此曰洋學也。彼亦曰洋學也。甲曰學洋也。乙亦曰學洋也。將舉吾民而惟洋之是習。吾儕生於中國既爲華民。亦何樂此洋派而學之哉。謬種相傳。婦孺尤甚。百端誣造。勢不致盡愚黔首不止。此等眼光如豆。心粗如甕之人。居一鄉惟見一鄉。以爲吾鄉誠樂國。居一邑僅見一邑。以爲吾邑已文明。其牢不可破之心。已深印入於腦筋之中。而莫由剗拔。論世界之大。而以爲近於荒唐。談技藝之精。而以爲鄰於謠詭。倘謂各國奇才異能。出類拔萃之士。均自學堂陶鑄而出。而彼將疑信參半。以爲豪傑大雄。是天之生是使獨。豈區區學校所克造就乎。其愚已甚。其錮已深。病入膏肓。而不可救藥者。比比然矣。殊不知中國之學以虛。所習者詩文字賦。所攷者蠹簡殘編。每以博雅自居高其位置。有不可一世之概。所謂下筆千言。胸中實無一策者。此類近之。外國之學以實。上焉者窺天察地。明乎陰陽消長之理。而又在在以實跡求之。日星之大小遠近。度數之遲速差異。皆毫髮無遺。不爽銖黍。其他聲光電化氣重熱等學。均考證有據。研究益精。格致搜索。絕後空前。嘗有造一物而祖孫相繼。數世始成者。製一器而精力畢殫。半生始就者。無他實事求是。由淺入深。無惰志。無懈期。一縷精忠。上窮萬象。旁驚八極。論之似覺神奇。要不外向學之誠意。有以引進其心思也。外國以實強。中國以虛弱。外國以實富。中國以虛貧。今日之中國欲望富強。非極力興學不可。東三省欲望保全。亦非合衆力興學不可。若之何處競爭劇烈之衝。而猶晏然鼾睡。不復有燕巢危幕之慮。而泄泄沓沓。惟利是視。不顧公益。不審大局。苟且偸安。尙謂興學與否。國家之事。官府之事。與吾輩村氓何預也。其亦未即國民一分子之義。而熟思之也。

東京電報

●日政府議決開放大連 此次日本已議決開放大連以便各國商民之通商不日即行爲自由貿易港云

●參謀本部次長調任 陸軍少將福島安正君於西本月十七日特調任爲參謀本部次長云（以上西四月十七日發）

雜報

●添練警兵 昨聞蓋城添練巡警兵九哨均係馬隊每哨五十騎月餉每名二十元按地籌款聞該營總巡乃城東富紳武生于寶山光緒二十六年曾佐廖籛如大令守城屢與俄戰頗著胆勇故總轄該營並派哨弁九員各領所部分巡蓋界而所招之勇概選精壯敢於擊捕髯匪者城北抵二道溝乃哨弁黃漢鼎哨長李慶春二人所轄專司巡察緝捕等事本埠有居民于盛海馬子清 寶齡劉紹仙等特往應募已入選云

●兇黑被戮 報恩以怨事已悖逆況加殺戮哉罪惡滔天唶其肉爲不饜矣前有江南省英州府太和縣屬王姓今年二十九歲流浪無常於西本年一月忽來本埠住留火神廟街第十一號房屋隣家有直隸省朝陽縣鄒姓年六十二備役爲生憫王姓之窮屢與食品愛撫極厚一日探諸囊中惠以銀洋一角王姓意其貯錢必多始有殺之之意而未得其機遂於西一月二日晚以鴉片混合黑糖詐稱神藥服之未死唯眞悶轉側耳王姓乃以苧繩絞其頸更以瓦塊之有三角者亂砍其左頰登時致死奪其衣服十件與銀三元遁逃新民府潛伏月餘於西三月十九復來本埠天網恢恢疎而不漏遂爲巡捕曾成亭查知而送於日本軍政署司法部訊得其實乃於日昨宣告死刑下午二點鐘於阜有門外處斬觀者如堵莫不愉其兇惡云

●鮮魚漏稅 本港凡由南來氷鮮等魚向年未聞徵稅今春或立新章昨本埠魚販寺由煙臺販來氷鮮魚百六十餘籠搭輪入口未報稅聞被叫行拍賣約直銀六百餘兩此後販貨進口各商自宜謹守關章完納稅鈔安可冒然從事自貽伊戚耶

●寬以濟猛 聞之居民云去春民戶一聞撿查院宇均有失措之意蓋固居民慣於不潔舊習難除各段憲兵時即責懲幼孩少婦因驚駭致病者往往有之今春憲兵查驗屋宇復有污穢不潔者則告以嗣後務須潔淨未聞責罰一人合此居民同深感戴云

●海賊預遁 近日港外水賊充斥糾衆捐刼時有所聞被本埠軍憲及河北朱子樵統領探悉特命本港查河巡勇乘小兵輪滿載鋼礟軍械一切會同朱統領巡警營兵隊二百乘船出海巡緝復由本埠陸路派去兵勇若干潛於西南海岸四面兜拏賊等偵知遠遁矣

●賊匪結黨爲害 昨聞歸州來人云前數年有海洋賊目綽號海龍九江者糾聚水賊四五百人刧民船三十餘隻分據各海曲連次搶民船刦二年之久得財甚鉅後被日軍擊散內有田庄臺北髯匪潛蹤歸里將分贓揮霍已竭前又糾夥二十餘暗藏槍刀至歸州一帶約會坐地土匪合謀搶刦竟於月之八日夜間往沿海一帶尋捉三船登岸發作該坐地匪等與之響應共七十餘賊搜刦綁票蹂躪鄉民幾不得生云云

●綁票勒贖 又據歸州來人云賊匪搜刦財物而外共綁男票二十八人女票二人將二女閉置一艙不許侮辱祇索銀洋十二萬元該票等實難措辦哀懇再三迭減至四萬元復求人往返關說給洋一萬四千元始如數贖回未致扯票云

●會水漲而復跌 本埠向上海會水前三日市行每一兩給收至加色六十六兩五錢今日復跌至五十四兩五錢向瀋陽會水前行每千兩加色一百二十七兩原是會至該處須待月之二十日期限始付現銀茲該期限已至故陡跌至六十二兩惟向天津會水前行加色一百二十兩今又增漲六兩每千兩加色一百二十六兩向寬城子會水加色前行一百零五兩今落至九十五兩向吉林會水前行加色一百一十五兩今落至一百零七兩五錢向錦州會寶銀一錠前行加色六兩四九錢今落至六兩二二錢本埠現銀每錠加色六兩一錢小銀洋換爐銀一錠七十二元八角十元五元之大手票元換爐銀七錢八分一二角之小手票每元換七錢六分羌帖每元換爐銀七錢八分云

叢談

●慧星 古來皆以慧星現爲饑饉瘟疫兵燹殃凶變之前兆無論東西各國人所最忌者也此固荒唐無稽之語不足憑信夫慧星之出現不勝頻繁西國天文家開撲來嘗言曰天之有慧星猶海之有魚其數不可思議按史册所載未有千里鏡以前慧星之出現約五百次既有千里鏡以後約三百次自十九世紀以來千里鏡之製造益精星學家逾精心考察除一千八百五十六年與七十六年二十年之外年年見慧星或一年見五個至九個故此後雖年年見之亦不難也世界中凶災之事亦將年起乎鳩拉國氏嘗言曰倘慧有靈富起自負之心矣

●空中之電 日光射於地球則海面地面水濕鬱蒸爲空氣所吸收水濕多則空氣冷而凝爲霧而騰爲雲濕中即含有電氣其自海而來水濕之氣爲正電其自地而來水濕之氣爲負電海面地面之濕混雜於空中而正負之電以合有時暑日酷烈空氣所受海面地面溼中之電過多正負或不平而不能和各屯爲黑雲有若備戰然而各有吸力相吸及至接近或此雲之正電多於彼之負電或彼雲之負電多於此之正電則多者必將注其電氣於少者以摩盪衝激之故而生熱力而發火光直俟正負相平然後以息又雲中或充滿正電有時感動地面之負電則向下直注而地面頓生危險使人而適當其處則人被擊斃使物而適當其處則物被擊毀電之閃發空氣爲之迸裂旣迸裂而復合殷殷然有大聲此卽雷之所由來也正負之電相注則溼氣多合故傾盆之雨其點甚巨電光之速力過於雷聲故未聞雷聲先見電光影電先至而雷後至也人値雷電之時行於路中不可以避入樹木之下人之引電較易於樹木故也而若居鐵屋中則無險危鐵之引電更易於人故也

NEWCHWANG, THURSDAY, APRIL 19, 1906.

As may be learned from the Tokyo advices below, Japan has at last defined her attitude towards the principle of open door and equal opportunities in Manchuria. Antung and Tatungkao are to be the first to be opened and will be followed by Mukden and still later by Tairen also.

It is easily seen that all Manchuria is not to be opened up at the same time. Setting apart the two-thirds of Manchuria which remains under Russian occupation, even in Southern Manchuria or more strictly speaking in Fengtien Province lying within Japanese sphere of influence, the so-called opening process will be introduced by degrees at Japanese discretion. It would be most idle for any one to deny the presence in Southern Manchuria of Japanese military interests. For instance, with Russia's declared inability to shorten the term of 18 months allowed for the evacuation of Manchuria, Japan may keep her own troops as long. In order to protect those interests, some restrictions will be imposed on interior travelling by foreigners.

The world may trust in Japan who makes a point of consulting her conscience as well as her interests. But if any one were to expect her to deliberately commit a folly or even to be forced to doing so, he would be doomed to disappointment.

The air is steadily warming up for the tennis season. The courts have been relaid in many cases and although a little too early yet, a few are already in active use.

Mr. and Mrs. Sammons were entertained at a tiffin yesterday by Mrs. Cox at her residence.

Lt.-Col. Yokura made a call yesterday on Mr. T. Sammons who acted as spokesman of the presentation deputation on Jan. 1st last, in order to return thanks in person for the elegant supplementary gift in the form of the address of presentation noticed in our issue on the 10th inst. Mr. Sammons has been requested to convey the thanks of the recipient to the other members.

The section of railway north of Changtu as far as Kung Chu Ling which was well-known as the place where the Russian "Army Gazette" was published in the latter part of the late war, is about to be handed over to the Japanese authorities according to the stipulations entered into with regard to the transfer.

Maj.-Gen. Nakamura, Chief of the Engineering Department of the Kwantung Viceregal Office, Lt.-Col. Kinoshita, a staff officer, Lt.-Col. Watanabe, and Mr. Hori, the engineer, have been appointed to the commission of taking the section over from the Russian hands, and will leave Liaoyang for the north to-day. The transfer of the remaining section from Kung Chu Ling north to Kwanchengtse is said to be effected about the end of next month.

The latest Tokyo telegrams state that the Japanese Government has addressed to the Powers an official communication in the following sense: "In pursuance of the principle of open-door and equal opportunities in Manchuria, Antung and Ta tungkao are to be opened on May 1st next, (as already reported), with Mukden following a month later on the 1st of June. Travelling in the interior by foreigners will be permitted, as far as it does not interfere seriously with Japanese military interests. The opening of Tairen (Dalny) in the near future has been also decided."

Mr. M. Makino, till lately Japanese Minister to Vienna and now Minister of Education, has taken additional charge of the Foreign Office temporarily as Acting Minister. Maj. Gen. Sir Y. Fukushima has been promoted to Vice-Chief of the General Staff, in confirmation of the previous report. Marquis Ito, Resident-General, will sail from Chemulpo in a warship on the 22nd inst. in order to attend the coming Grand Army Review in Tokyo fixed for the 30th inst.; at which Marshall Marquis Oyama is to assume command of the participating troops with Gen Viscount Kodama for Chief of Staff and Maj.-Gen. Sir Y. Fukushima and 12 other officers on the staff. It is proposed in some quarters to found within the Imperial Palace ground a museum for the trophies of the late war. The Kabafuto (Saghalien) Administration has a project under contemplation to raise a farming colony of immigrants from Japan near Vladimirofka.

The exchange rates still remain stationary—a thing very much out of the common.

營口旅館料理店案内（いろは順）

料理 **入船亭** 永世街百八十三號 谷初次郎

旅館 **日營ホテル** 河岸通り 店主 井上源吉

料理 **東京館** 永世街八十六號 店主 村上京四郎

旅館 **東茂旅館** 西北街百七十三號 正金銀行西三程

料理 **千鳥** 元神廟街百三十三號 店主 吉住善藏

料理 **沖の島** 永世街百六十四號 店主 中川彌三郎

料理 **吉野亭** 永世街八十六號 店主 坪田正好

旅館 料理 **高砂ホテル** **高砂亭** 西北街 店主片山小みつ（電話一四五番）

旅館 **竹村館** 永世街二十二號 店主 麻田久二（電話五一）

旅館 **大和館** 永世街三十四號 店主前田九一郎

料理 **滿洲樓** 南永世街第十號 店主 直塚勝一

料理 **萬梅** 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助

料理 **まんなをし** 永世街字二本町三百五十九号 店主 和田常松

和洋御料理 **公樂園** 南永世街

東京生蕎麥 一式 **東庵** 元神廟（電話百五十九）

旅館 料理 **金城ホテル** **第二金城ホテル** 永世街百六十六號 永世街百六十六號 店主齋藤富次郎

料理旅館 **醉花園** **澁谷旅館** 永世街百二十七號 店主 澁田留吉

料理 **喜樂亭** 營口元神廟街

旅館 **東雲旅館** 永世街七號 店主 谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館 **東雲** 主任 谷口今朝太郎

さるそば **第一更科** 營口元神廟街
さるそば **第二更科** 永世街鶴の湯角

御料理 **柳亭**

叮嚀專一 豊濟門街二三 店主 玉岡釜人

御料理並ニ溫泉 **一力** 毎日新湯 營口永世街 店主 堀万助

和洋料理 **松月亭** 營口元神廟街一四三号 住松信太郎

料理 **都樓** 平野町 店主 坂本ちか

遼陽旅館料理屋案内

旅館料理業 **日營ホテル支店** 主任 井上源吉

御料理 會席 **菊水館** 主任 朝枝園?

旅館 西洋料理館 **遼陽館** 主任 永瀬宇吉

旅館 料理業 **公陽館** 主任 宮川秀基

御料理 會席 **末廣屋** 主任 山根初之亟

御料理 色々應御注文 **凱旋亭** 主任 古谷庄太郎

旅館 御料理 **遼塔ホテル** 主任 木村常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル **遼陽俱樂部** 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎

會席 御料理 **玉ノ家** 主任 西野治三郎

御料理 會席 **來々亭** 主任 石田清

和洋料理 御旅館 **滿洲ホテル** 遼陽西街西門一一七号 上松榮治郎

奉天旅館料理屋案内

一和洋御料理 **遼東館** 遼陽城內東街
本館は遼陽城內第一繁盛の地にあり內外人往來頻繁なり今般四方紳士諸君の御勸に依り宏莊美麗なる日本風の家屋を新築致し一百人以上の宴會等も出來得べく廣間も御座候に付ては續々御光來被成下度花客諸彥に對し親切叮嚀を旨とするは弊館の特色に御座候

旅館 **奉天館** 奉天城內鐘樓南大街 奉天軍政署指定旅館（電話一五）

和洋御料理 **日清俱樂部** 奉天大南門裡大街（電話一四）

商人御定宿 **瑞豐館** 奉天小西關大街北側 館主 ?野嘉吉（電話　號）

會席御料理 高等御旅館 **天神樓** 奉天小西關大街北側（電話　號）

溫泉付大勉強キレーデヲイシヒ

旅館料理店 **日の出樓** 奉天小西門通（元紅葉館跡） 樓主 大瀬七造（電話十七號）

旅館料理店 **日盛館** 奉天小西關大街南側 館主 入江信男（電話　號）

旅館料理店 **梅松館** 奉天城內灰市街東華門宮殿東側 館主 押尾富次郎（電話　號）

旅館料理店 **大和館** 奉天大西關高臺子廟前 館主 今井コノ（電話　號）

旅館 **大正館** 奉天小西邊門外十間房道北側 館主 大草村行
奉天に於ける日本風新築家屋は弊館より外に無之特に夏期御宿泊には最も適すべき樣に相成居候間御投宿の節は極便宜に御取扱可申上候以上

御旅館料理 **高砂館本店** 奉天城外廿四
高砂館支店 **奉高館** 奉天十間房第十五號 店主 宇本智平

旅館料理店 **日奉館** 奉天小西門外大街 館主 原田清五郎

高等旅館 **東洋館** 奉天大西門外小什字街（電話　號） 主任 藤島初野

御料理 **梅ケ枝** 奉天小西門より一丁西の辻北入 館主 辻井ムメ

旅館料理店 **勉強館** 奉天小西關外北長發園隣

高等御旅館 **茂林館** 奉天小西關大街路北（電話二十五號）

御旅館 **瀋陽館** 奉天小西門外大街路北

撫順炭大販賣
多少に不拘御用命被仰付度願上候
金城館販賣部

特別室落成
營口金城ホテル旅館部

會席御料理 **金城館**

奉天小西門外
會席御料理 高等御旅館 **金城館**

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL EGINNEER.

Plans and specifications made to order.

ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

自造 煉瓦 瓦 並に各種石材販賣
營口青堆子 **加州組**（電話八十六番）

材木販賣 荒物
營口永世街第一八四號平野町 **秋田洋行**
本店 下關 秋田寅之輔商店

着荷廣告
筑前博多單帶、仝伊達卷、御召類、セル地、
ゴム引防水布外套、金庫、錫製品各種、
輕便水濾器械、洗桶、專賣特許米洗器、
萬年筆、洋菓子、ネクタイ、洋傘、等勝手道具いろ〳〵
營口 **加藤洋行**（電話八十番）

四月十八日ヨリ仝廿八日マテ本社事務員仝診査醫當地滯在契約ノ御便利相計リ申候
明治生命保險株式會社牛莊代理店
加藤洋行

工 營口元神廟前
飯塚工程局材料部（電話百三十五番）
弊局土木建築材料品の各産地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道産松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種

大連東洋ホテル
大連鐵道停車場附近民政署前兒玉町

西洋家具製造販賣
營口青堆子 **清水寧木局**（電話九十四番）

發賣
料木、杆寸 一丈 一丈二
亞鉛枚、白粃、醬油、
日本米、菓子、麥、麥酒
雜貨一切卸賣
日本酒春駒一手販賣
營口元神廟街 **捌荷洋行**（電話一四七番）

爲替相場（四月十八日）

日本向	九十九圓五十錢	（軍票百圓に付）
上海向	七十一兩二十五錢	（同）
天津向	一百〇二圓五十錢	
芝罘向	一百〇三圓五十錢	（百弗に付）

日本品最近物價表 加藤洋行

一半紙	一〆	二圓九十錢より三圓廿錢
一美濃紙	仝	七圓五十錢
一仙花紙	一帖（六十枚）	六十錢
一仝狀袋	二十枚續	三錢二厘以上四錢
	百枚	十二錢以上十八錢

室內裝飾品及寢具 矢野洋行

一蒲團	三枚組	六圓九十錢以上三十五圓
一座ブトン	十帖	五圓五十錢以上十四圓
一疊		二圓六十錢以上三圓
一薄緣	十枚	八圓
一麻綛通	仝	三圓五十錢
一綿綛通	仝	一圓七十錢
一由加多緞		

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.
$4.80 per 6 months.

本紙定價

一枚ニ付	銀四仙
一ケ月前金	銀八十仙
半ケ年前金	四弗八十仙
一ケ年前金	銀九弗六十仙
廣告 二十一字詰一行一回	銀二十仙